



# 東北 復興日記

まだまだ

▶▶▶ 214



城西大学理学部数学科2年

スヘイラ・ベディルさん

響いても人々は逃げる事が  
できませんでした。

夕方には、市内の高見公園  
で開かれた「光のモニュメン  
ト」のイベントにも参加。と  
ても寒かったのに大勢の人が  
集まっていて、温かく感じま  
した。

翌日は福島原発に行きまし  
た。福島第二原発には嚴重な  
セキュリティを経て入館し  
ました。原発は初めて。その  
大きさに驚きました。「どう  
してそんなに電気が要るので  
すか」と人間の飽くなき欲望  
を思いました。福島第一原発  
は廃炉に向けた作業をしてい  
ますが、まだ周りには帰還で  
きない地域が広がり、危険性  
の大きさを示しています」写  
真。

今、トルコでも二つの原発  
が造られています。トルコも  
地震が多い国です。建設に賛  
成の人も反対の人もいます。  
私は、皆の将来のため心配し  
ています。

来日して二年余。福島での  
経験は本当に特別なものでし  
た。国が違っても悲しいこと  
は同じであり、悲しみを表す  
言葉は無いということを感じ  
ました。自然災害は常にあり  
ますが、予防し、備えること  
はできます。

番場さんやご一緒した皆さ  
まに感謝しています。そし  
て、このような被害がこれか  
らごこの国でも起こらないよ  
うに願っています。

東日本大震災から六年とな  
る先月十一日から十二日にか  
けて、トルコ人留学生として  
貴重な体験をしました。ドキ  
ユメンタリーで知った悲劇的  
な被災の現場と傷痕を自分の  
目で見たのは、忘れられない  
ことでした。一カ月たった今  
も昨日のことのようです。

福島県南相馬市で支援を続  
ける「ベテランママの会」代  
表の番場さち子さんらに誘わ  
れ、「3・11」の日を迎える  
ため現地に行き、津波で亡く  
なられた方の墓地で線香をあ  
げました。親族を亡くされた  
番場さんのご家族のためにも  
祈りました。そして地震発生  
時刻の午後二時四十六分、サ  
イレンとともに地域の慰霊碑  
の前で黙とうしました。六年  
前のあの日、サイレンは鳴り

## 自分の目で見た被災地

※この連載は、東京のNPO法人J  
KSKと、被災地の女性たちが協力し  
て復興に取り組む「結結プロジェクト」  
の協力を得て、掲載しています。

